

こんなことまで!? タイの銀行アプリがすごい!

北陸銀行 国際部 中国室・アジア室

田中 宏知



New! K PLUS International Transfer to Japan
カシコン銀行の日本向け海外送金アプリの広告

はじめに

私は2020年3月から2021年9月までタイの大手商業銀行であるカシコン銀行に赴任していました。タイの銀行で働いていると、モバイルバンキングの分野では日本の銀行よりはるかに進んでいると感じさせられます。本稿では、タイのモバイルバンキング展開と日本には見られない銀行アプリの機能についてご紹介したいと思います。

1. タイの銀行業界

日本には都市銀行や地方銀行、信用金庫だけで300を超える金融機関があります。しかし、タイにはたった18の銀行しかありません。タイには地方銀行や信用金庫といった概念がなく、都市銀行のみが存在しているのです。

表1 主要銀行

(億バーツ)

銀行名	総資産	シェア
Bangkok Bank PCL.	33,849	16.87%
Siam Commercial Bank PCL.	32,804	16.35%
Krung Thai Bank PCL.	32,270	16.08%
Kasikornbank PCL.	30,614	15.26%
Bank of Ayudhya PCL.	24,607	12.26%
TMBThanachart Bank PCL.	20,615	10.27%

出所：2020年12月期、タイ中央銀行ホームページより

表1はタイの街中でもよく看板やATMを見かける主要行ですが、上位6行で9割近くのシェアを占めており、ベトナムやカンボジアといったタイ周辺国へのネットワーク構築にも力を入れています。

2. タイの銀行のモバイルバンキング展開

タイではスマートフォンの普及率が高く、老若男女、都会・地方問わず幅広い人々がスマートフォンを使いこなしています。こうしたスマートフォンの

普及を背景にタイの各銀行は個人向けのアプリを開発し、利便性の高い機能の提供により顧客獲得を目論んでいます。日本のネットバンキングとは違い、単に残高確認や振込ができるだけでなく、スマホによる海外送金、口座番号なしでの国内送金、QRコードによる決済、ECモールでのショッピング、カードレスATMによる現金引出しなど、日本では考えられないほど銀行アプリの機能が充実しています。

(1) スマホによる送金

A 海外送金

タイでは海外送金が大変便利です。銀行アプリで海外へ送金することが可能で、私自身日本へ帰国する際にスマホで日本に送金しました。手数料は窓口扱いに比べ安く、手続きを行った翌営業日には日本で送金を受け取ることができました。

表2 海外送金手数料比較

種類	送金手数料	円換算
アプリ	1,288バーツ	(約4,300円)
窓口	500バーツ+送金金額の0.05% (最低5,000円)	(最低約6,000円)

(※参考：当行の仕向海外送金手数料)

外為IB	6,500円
窓口	10,500円

※支払い銀行手数料の負担を依頼人とするか受取人とするかで手数料が変わりますが、カシコン銀行のアプリでは、依頼人負担しか選択できないため、依頼人負担の手数料比較となっています。
※別途為替手数料やリフティングチャージが発生します。

B 国内送金

日本では口座番号が分からなければ振り込みはできませんが、タイでは口座番号以外でも銀行口座に紐付けられた①携帯電話番号、②QRコード、③ナショナルID(タイ人のみ)のいずれかで振込先を指定することができます。QRコードの場合は振り込みだけでなく、資金を請求し自身の口座に入金することも可能で

す。日本の「J-Coin Pay」でも似たような機能が備えられています。タイでは通常使う銀行口座に請求した資金を直接入金することが可能であり非常に便利な機能となっています。

(2) QRコード決済

タイではQR決済が普及しており、屋台はもちろんQR決済可能と表示していないタクシーでもQR決済に応じてくれるドライバーが増えています。クレジットカードに対応していない店であっても、銀行口座さ



タイでは屋台でもQR決済が可能

え持っていれば即座にQRコードを作成・印刷することが可能であり、決済会社との特段の契約も必要なく、誰でも簡単にQR決済に応じることができます。

(3) 銀行アプリでネットショッピング



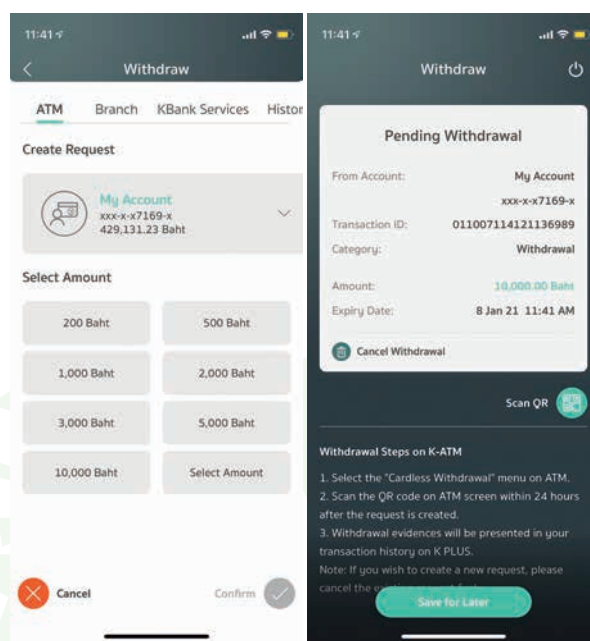
カシコン銀行のECモールアプリ

次にECモールです。カシコン銀行では個人用アプリ内でネットショッピングができます。日系企業を含め、飲食料品、日用品、文具・工具、電子クーポンなど商品は幅広く、支払いも銀行口座引き落としやクレジットカード決済などが選択できるので、スマホとアプリさえあれば、いろんな買い物に対応することができます。アマゾンや楽天のような大手の通販会社もありますが、通常の高額確認や振込をする銀行アプリにこの機能がっているのは便利で斬新です。

(4) カードレスATM

タイでは、ATMの画面上に表示されるQRコードをスマホで読み取ることで、キャッシュカードがなくても現金を引き出すことができます。

顧客側は、①カードを持ち歩く必要がなくカードの取り忘れもなくなる、②カード発行手数料やカード利用手数料が不要、③スマホを無くしてもアプリの再インストールが容易、④スマホのパスワードロック、ATMへのパスコード入力、スマホへの変換パスコード入力などによりキャッシュカードの暗証番号制度よりセキュリティが向上する、などのメリットがあります。



カードレスATMアプリのスマホ画面

現在大手行がカードレスATMを導入していますが、銀行側もカード取り忘れによる再発行業務の削減が期待され、今後ますます普及することが見込まれます（タイでは現金とカードが出てくる順番が日本とは逆で、カードの取り忘れが多い）。私自身タイ赴任期間中にキャッシュカードで現金を引き出したことはありません。

このようにタイの銀行アプリは目覚ましい進化を遂げています。スマホを一台持っていれば日本という街のたこ焼き屋のような屋台でもQR決済を利用でき、アプリで日用品の買い物も可能で、財布を忘れてもATMにスマホをかざせば現金を引き出すことができるなど、タイの暮らしは非常に便利になっています。

おわりに

スマートフォンの爆発的な普及を足掛かりに、タイの銀行は日本ではあまり馴染みのない「銀行業務とスマートフォンの合体」効果を極限まで高めています。日本でもキャッシュレス化は進んでいますが、日本人は銀行アプリですべてを賄ってしまうことにまだ抵抗があるのかもしれませんが。しかしDX（デジタル化による変革）が求められている現代において、われわれ銀行はもとより、企業には革新が求められています。

当行でもお客さまにDXツールを提供する会社と提携をしておりますが、こうした海外の銀行の事例も参考にしながら、当行が行うべきDXとは何か、また、如何にしてお客さまのDX支援に繋げていけるかを海外の銀行で働いた日本の銀行員として考え、実践していきたいと考えております。